

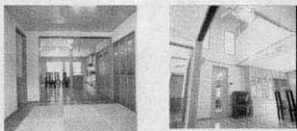


住宅を、健康・環境とデザイン性の2面から評価しようという画期的な住宅コンテスト「第1回TONAN施工例コンテスト」が開催された。木質材料メーカーの東南産産が主催したもので、募集テーマは「健康的な暮らしと環境の保全を考えたエコシカルな住居」。

同社の建材を使用していることが応募条件という制約はあったが、180点の応募があり、18点が入賞した(審査委員長・高橋元 ひと、環境計画発表、7月には表彰式が開催)。住宅新築最優秀賞は大分県の有浅野建設(優秀賞は住友建設(福岡県)、島工務店(佐賀県)、築地田整工務店(福岡県))がそれぞれ受賞した。ここでは、そのなかから3つの住宅を抜粋して紹介する。

有アヴニール設計 [設計] 株 業建設工業 [施工]

佳作



健康・環境に加え、心のやすらぎを考えた「心の健康」にも配慮した。居間はガラスブロックと自動開閉式のトップライトにより、明るく開放的な空間とした。和室の壁は珪藻土、天井はオスモクリア仕上げのシナ合板。畳の下には備長炭塗料を塗布し、押入内部の壁・天井には桐ボードを貼った。OSBは水性フレタニにおしをりした。



TONAN 施工例 コンテスト

素材を活かすデザイン

木視率は50%以下に抑える

素材を引ききたてる照明・設備

■木の使い方を考える
「TONAN施工例コンテスト」の審査員、石川恒夫・前橋 祥太郎建築士事務所は、「無垢材を用いる場合、床・壁・天井材のバランスを大切。すべて木で仕上げることは、木調子で退屈しと振舞える。階ありの階段を全面に貼った「山小屋風」から、一株進んだ素材の使い方が必要というわけだ。
「木視率は50%以下に抑えるべき」と言うのは、特ビルターズジャパン代表の清岡順基氏。「木視率」とは室内体における見える木の床面積をあらわす概念。50%を超えたら「定番」として定着しつつあることがわかる。
「同じ目と木地仕上げでも、たとえば腰壁を天然塗料で木目を生かしながら塗るといった提案もよい。」(川口敬徳)

有浅野建設(大分県) [設計・施工]

最優秀賞



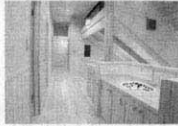
テーマは「家族の気配を感じる家」。間仕切りをできるだけなくし、吹き抜けのある居間を中心に連続空間を最大限とした。床:ヒノキ、壁:しっくい、天井:スギ、土間:石といった自然素材には九州産のものを使用。「木材が職匠として目に映えるようにし、木に対する信頼感と柔らかい風合いを演出した」

株林喜太郎(熊本県) [設計・施工]

佳作



テーマは「自然素材と住空間の融合」。内装・収納・建具の全てに無垢材を使用。登梁を活用して上部空間に広がりをもたせたほか間仕切りを極力排した。床:レッドパイン33mm、壁:ホワイトウッド15mm+薩摩中蔵島壁(ガラス原料)、天井:ホワイトウッド+レッドパイン33mm。洗面台も手作り。ネダス・タルキニス工法採用



■オーダーメイドの設備・納め差別化提案
静岡県の工務店・住花みずき工房は、キッチンや化粧台、家具、収納などを、住まいるお客様の心に合わせて、自然素材を中心にオリジナルで製作する「セミオーダー」に力を入れている。既製品に満足しない住まい手も増えており、差別化につながっている。

■設備・照明の使い方

設備の納め方や照明の使い方も室内の雰囲気はすいぶち変わる。

一面の完成建設の施工例では、エアコンをビルトインにする、ダクトを意匠的に扱って、ダウンライトを使うといった工夫で空間をすっきりとみせたい。とくに間接照明は素材の表情を引きだすのに有効だ。

平成7年3月31日新刊
平成7年6月30日第3種郵便物認可

1 平成13年(2001年)6月20日水曜日

新建ハウジング

THE SHINKEN HOUSING

6月20日(水) (第196号) 新建新聞社 毎月10,20,30日発行
発行所: 東京都中央区京橋2-6-6 藤木ビル TEL:03(5524-1604) FAX:03(5524-1605)
東京 〒104-0031 東京都中央区京橋2-6-6 藤木ビル TEL:03(5524-1211) 編集: 234-1330 (店) FAX:03(234-1130)

TEL:0120-47-4341 HP: http://www1.sphere.ne.jp/shinken